

### 江東区のみどりの現状と課題



## 第2章 江東区のみどりの現状と課題

### 1 江東区のみどりの現状

#### (1) 目標達成状況

当初計画及び「江東区 CIG ビジョン」の目標の達成状況をみると、いずれも目標値の達成には至っていない状況です。

なお、緑被率は、基準値となる平成 17 年度と比較して、CIG ビジョン等に基づく施策や緑化指導等の推進により上昇しています。また、都市公園の整備も着実に進んでいます。みどりに対する区民の満足度は、公園や水辺の充実により、向上しています。

一方で、低未利用地の開発によるみどりの喪失や緑化の余地が少ない密集市街地では、大規模なオープンスペースを確保することが難しい等、緑被地面積の確保についての課題もみられます。また、公園の整備は着実に進めているものの長期的に未整備の都市計画公園が存在するとともに、既成市街地等では身近な公園が不足している地域があります。

#### ■ 当初計画における目標達成状況

	基準値	現状値 平成 30 年度	目標値 平成 37 (2025) 年度
緑被率	16.7% (平成 17 年度)	18.7% (平成 29 年度)	22%
都市公園の整備量	383.1ha (平成 18 年度)	438.1ha	422ha
緑被地面積	658.4ha (平成 17 年度)	751.3ha (平成 29 年度)	869ha
みどりに対する 区民満足度	54.5% (平成 18 年度)	61.7%	65%

#### ■ 「江東区 CIG ビジョン」における目標達成状況

	基準値	現状値 平成 30 年度	目標値 平成 31 年度
緑被率	16.7% (平成 17 年度)	18.7% (平成 29 年度)	22%
緑視率	15.4% (平成 25 年度)	16.3%	22%

## ① 緑被率

平成 29 年における区全体の緑被地面積は 751.26ha で、緑被率は 18.7% です。緑被率は、23 区内で 9 番目に高い水準となっています。

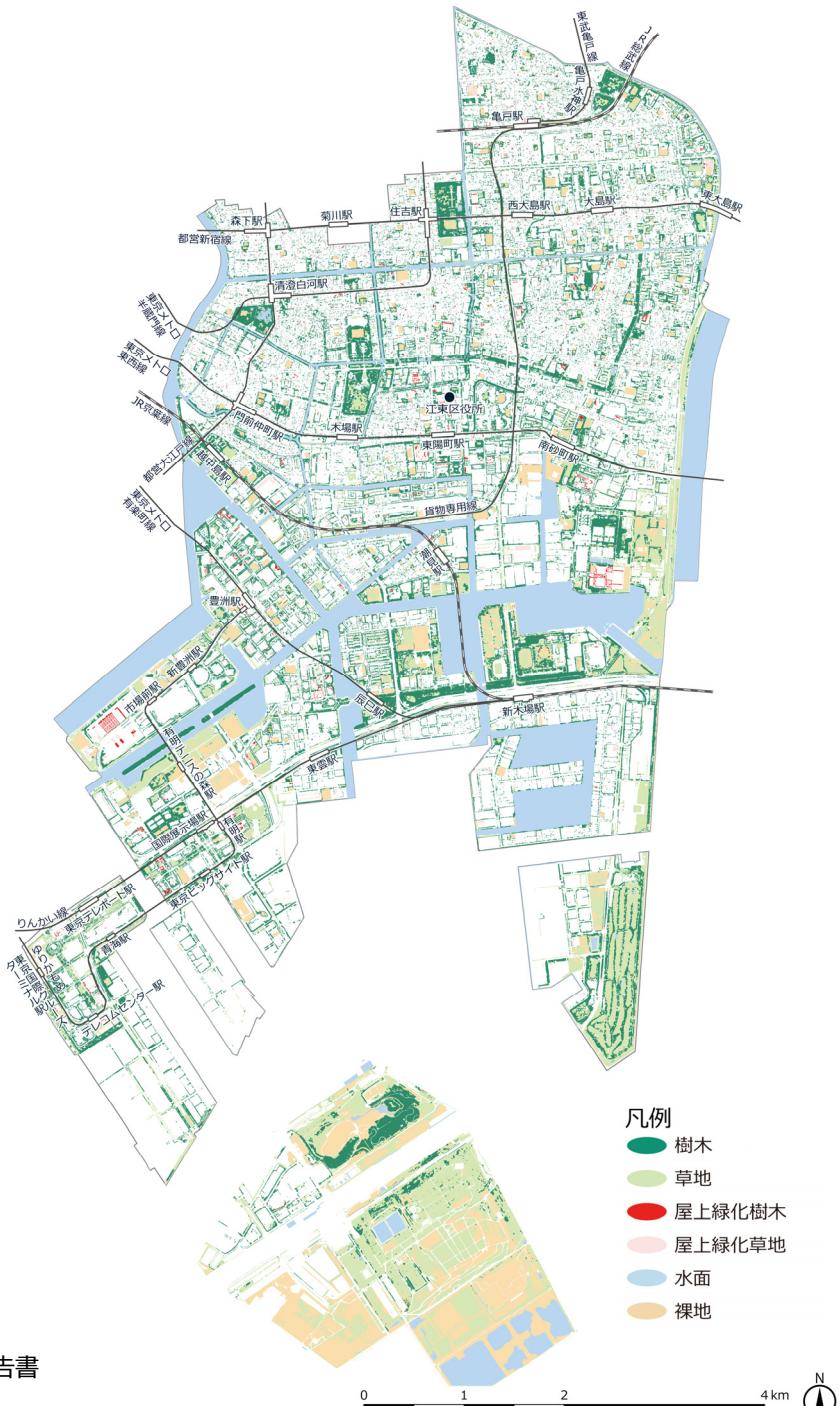
区全体の緑被分布としては、都立若洲海浜公園、都立猿江恩賜公園、都立木場公園、都立夢の島公園等の公園、大学、社寺等にまとまった緑被地が存在しています。

また、河川が区内を縦横に流れ、仙台堀川公園や横十間川親水公園等にもまとまった緑被地が存在しています。



東京都 23 区における緑被率の比較

【出典】 平成 29 年度江東区緑被率等調査報告書  
各自治体 HP

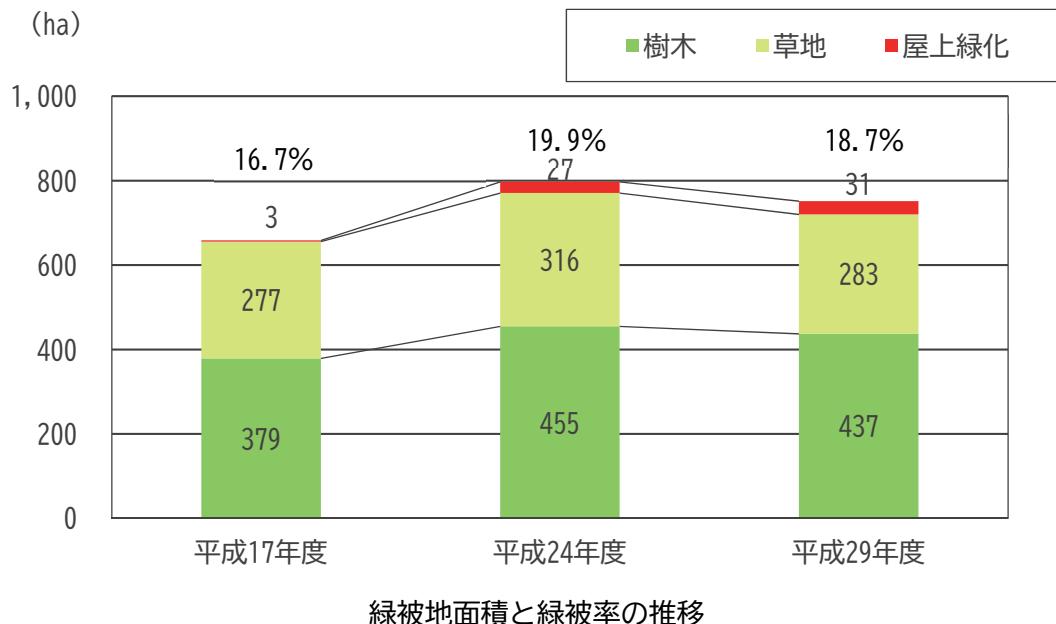


【出典】 平成 29 年度江東区緑被率等調査報告書

## ア 緑被率の経年変化

緑被率については、当初計画策定時の平成 17 年度と比較すると増加傾向ですが、南部地域の大規模開発に伴う緑被地面積の減少により、5 年前と比べ、緑被率は減少しています。

内訳をみると、平成 24 年度との比較では、屋上緑化が増加した一方、樹木や草地が減少しています。緑化指導により、内陸部で屋上緑化が進んだ一方で、未利用地が多く残る南部地域の開発により、樹木や草地の消失がみられました。



## 区全体の緑被地の状況

区分	前回（平成 24 年度） 調査結果		平成 29 年度 調査結果		緑被地等の推移 (前回との比較増減)	
	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
樹木	454.78	11.37	436.88	10.88	▲17.90	▲0.49
草地	315.78	7.90	282.96	7.05	▲32.82	▲0.85
屋上樹木	8.60	0.21	7.88	0.20	▲0.72	▲0.02
屋上草地	18.01	0.45	23.54	0.59	5.53	0.14
緑被地	797.17	19.93	751.26	18.71	▲45.91	▲1.23
水面	529.04	13.23	528.63	13.16	▲0.40	▲0.07
裸地	163.04	4.08	134.02	3.34	▲29.02	▲0.74
建物・道路等	2,509.75	62.76	2,602.08	64.79	92.33	2.03
区全体	3,999.00	100.00	4,016.00	100.00	17.00	-

表中の▲は、値としてマイナスであることを示す。

【出典】 平成 29 年度江東区緑被率等調査報告書

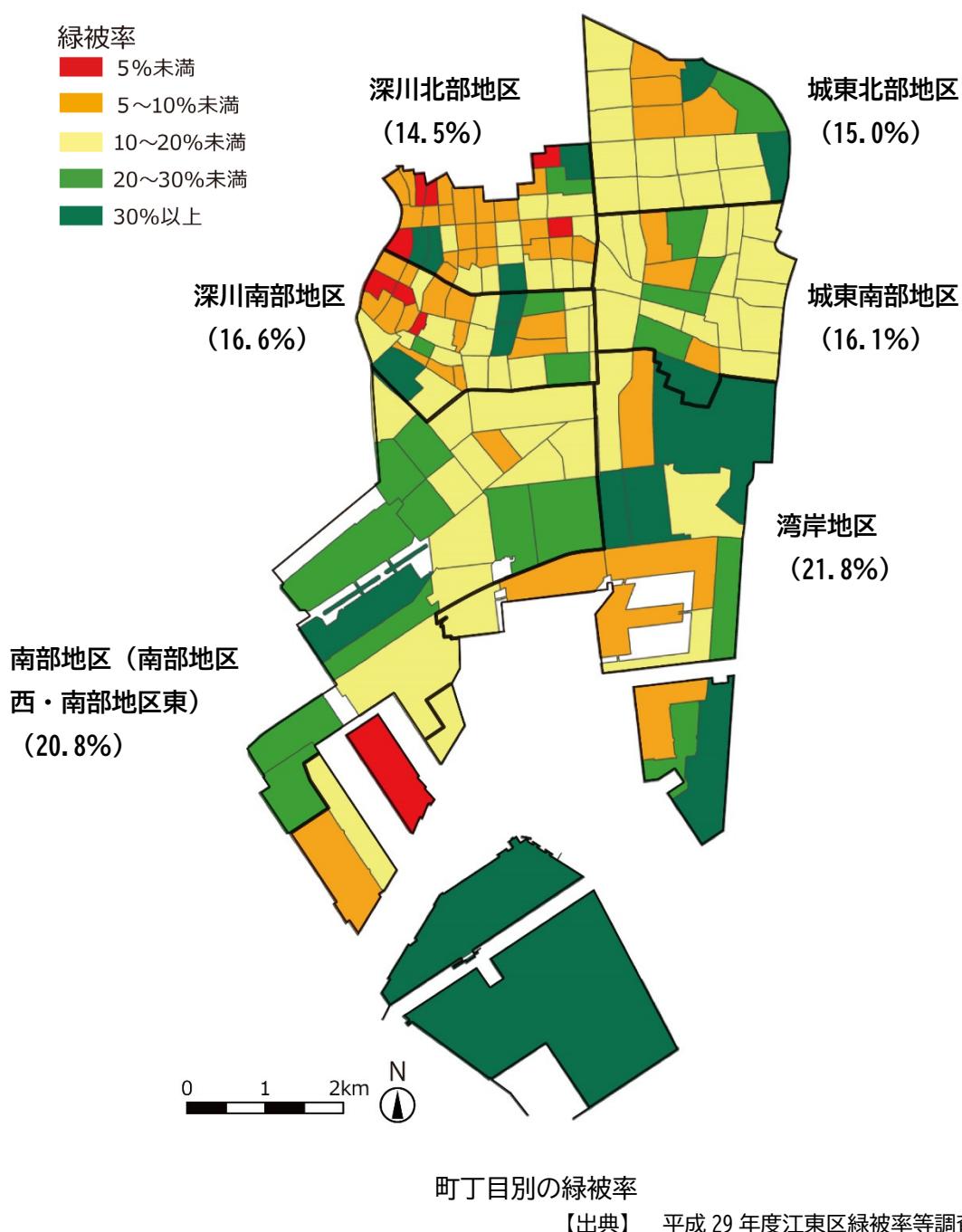
## イ 地区別の緑被率

緑被率を地区別にみると、緑被率が高い地区は南部地域に多く、低い地区は深川地域や城東地域の北部に多くある傾向があります。

地区別の緑被率では、最も高いのは湾岸地区の21.8%となっており、次いで南部地区の20.8%、深川南部地区の16.6%となっています。

湾岸地区では、新木場、有明、青海に存在する運輸・物流施設、未利用地に草地が多く存在することから、湾岸地区のみ草地面積が樹木面積を上回っています。

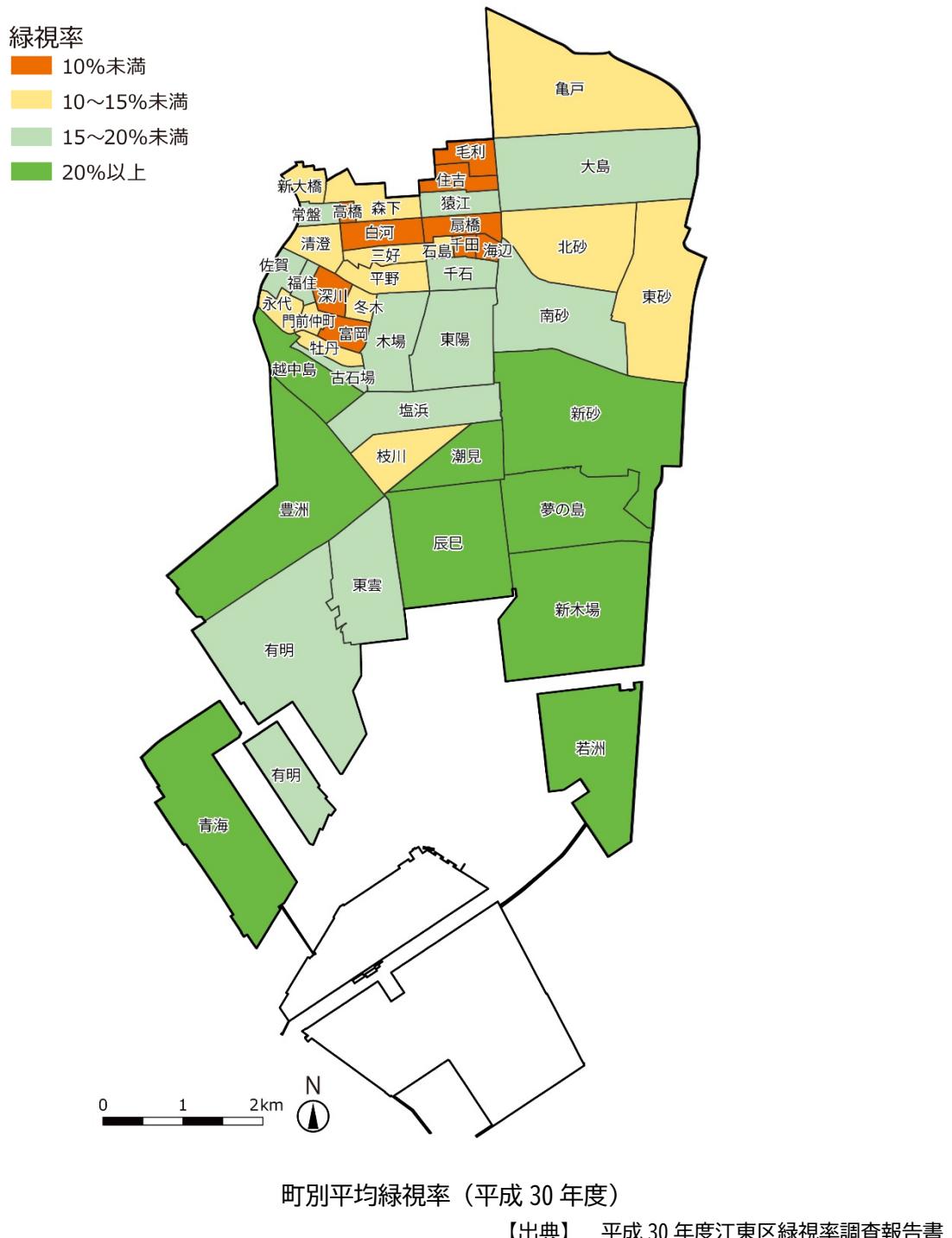
南部地区では、緑被地に占める樹木・草地ともに屋上緑化の割合が最も高く、深川南部地区では、緑被率に占める樹木の割合が最も高くなっています。



## ② 緑視率

平成 30 年度における、区全体の緑視率は 16.3%で、前回調査（平成 25 年度）と比較すると増加しています。緑視率が増加した要因として、街路樹の生長や建築物の接道部緑化の増加が考えられます。

また、前回調査では江東区 CIG ビジョンの目標値である緑視率 22%を超えた箇所は 415 か所で全体の 24.0%でしたが、平成 30 年度の調査では 446 か所で全体の 27.0%となりました。



### ③ 公園の整備状況

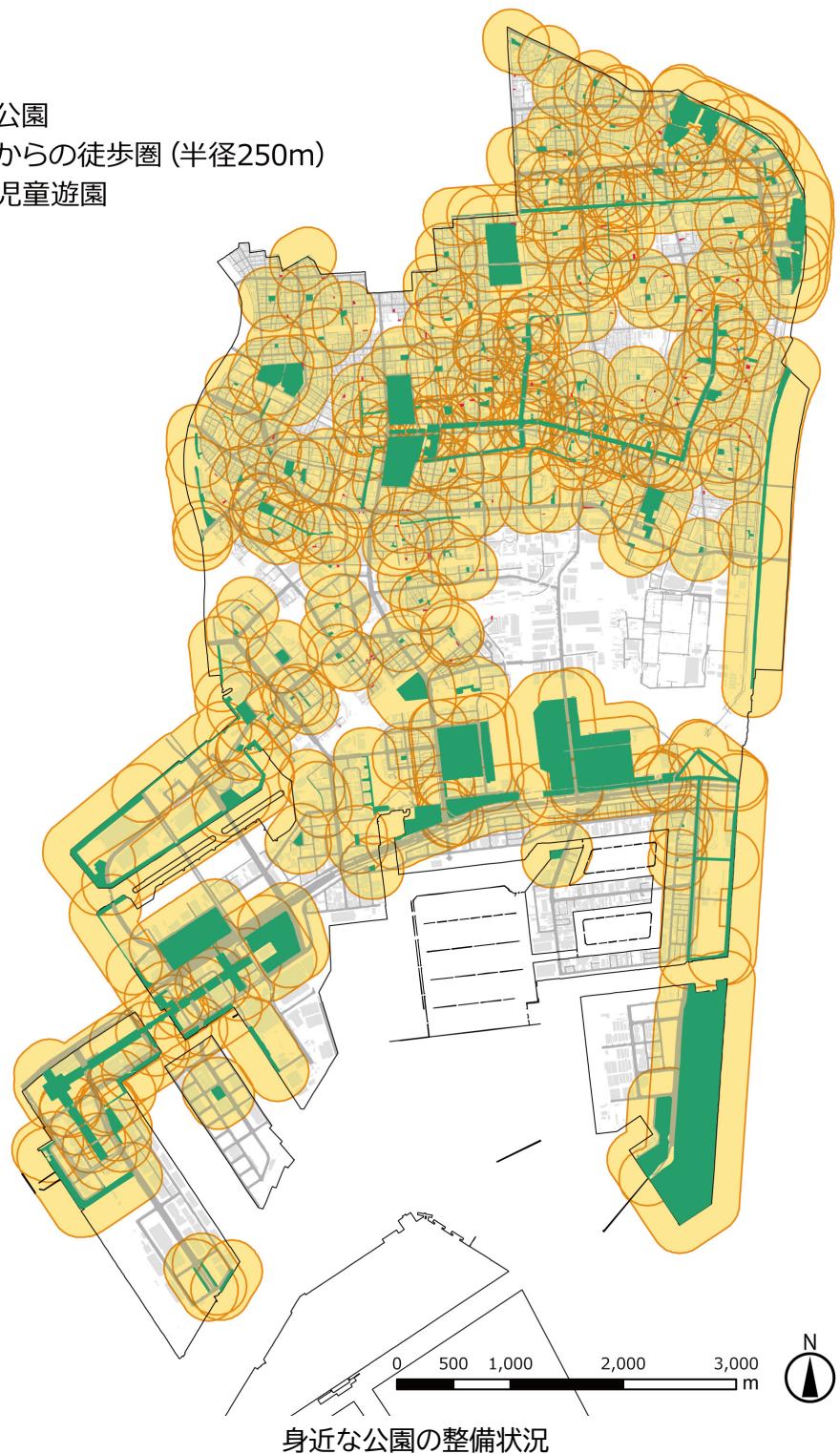
区内には、平成30年4月現在、区立公園168か所、都立公園25か所、国営公園1か所、区立児童遊園93か所、合計約438haが整備されています。

平成19年度以降、新規に増えた公園は14か所です。（都立有明北緑道公園、旧三大小記念公園、千石二丁目公園、豊洲ぐるり公園等）

身近な公園の充足状況を見ると、歩いて行ける距離（250m）に公園が確保されていない地域があります。

#### 凡例

- 都市公園
- 公園からの徒歩圏（半径250m）
- 区立児童遊園



【出典】 平成29年度江東区緑被率等調査報告書を基に作成

## (2) CIG ビジョンにおける施策の進捗状況

CIG ビジョンでは、5 つのビジョンに基づき推進プログラムを位置付け、事業を推進しています。

「まちづくり」に位置付けられている緑化に関する施策は毎年度着実に実施しており、量の充実が図られています。

一方で、「文化創造」や「区民生活」、「協働」に関する事業の中には、未着手となっているものがあります。また、CIG ビジョンに基づく取組では、「防災」や「農とのふれあい」をテーマとする取組が位置付けられていません。

以下に、5 つのビジョンごとに施策の進捗状況を整理しました。

### 【まちづくり】緑の施策の強化により「緑の中の都市」が実現している

- みどりの骨格とネットワークの形成に向けて、水辺の散歩道 532m、潮風の散歩道 748m を整備しました。
- みどりの再生と管理を進め、2,886 m<sup>2</sup>の公園芝生化を行いました。
- 公園・緑地の整備の推進として、公園の新設のほか、公園や児童遊園の改修を行いました。
- 河川・運河・海辺の緑化として、1,251mの河川護岸緑化、水辺・潮風の散歩道を整備しました。
- 道路の緑化として、街路樹の整備を進めた結果、街路樹が約 62% 増加しました。
- 公共施設の緑化として、校庭・園庭の芝生化や公共施設の屋上緑化・壁面緑化を進めてきました。
- みどりと自然の調査として、緑視率調査や緑被率調査を定期的に進めています。



公園の芝生（若洲公園）

### 【文化創造】江東区ならではの「緑を育む文化」を創造している

- 地域のランドマークとなる歴史ある樹木や社寺の緑の保全として、保護樹木・保護樹林制度の充実を図りましたが、保護樹木は減少しています。
- 緑化助成制度では、5 件の生垣助成や 11 件の屋上緑化助成を実施しました。
- 顕彰・コンクールとして、オンラインフォトコンテストを実施しています。
- 江東区独自のみどりの文化の形成として、花の名所づくりやこうとうトコトコ日和「花暦編」（一般社団法人 江東区観光協会）を発行しています。

### 【区民生活】「緑に親しむライフスタイル」が定着している

- 緑のリサイクルとして、チップ生産や堆肥生産等、剪定枝の再資源化を実施しています。
- みどりの普及・啓発として、ベランダ緑化に関する講座や小冊子を発行しています。
- 人材育成として、みどりのコミュニティ講座等が開催されています。

### 【協働】区民・事業者・行政が一体となって推進している

- 事業者が主体となった緑化活動として、ワークショップによるコミュニティガーデンやポケットエコスペースを設置しています。
- 地域が主体となった緑化活動として、コミュニティガーデン活動への支援やみどりの協定締結団体に対する助成を進めていますが、助成件数には増減がみられます。
- 市民団体が主体となった緑化活動として、田んぼの学校運営助成やポケットエコスペース維持管理助成を実施しています。
- CIG 区民サポーター会議を設置し、区のみどり施策への参画・提案をいただいています。

## 【基金活用】「みどり・温暖化対策基金」を積極的に活用している

- みどり・温暖化対策基金として、緑化事業や温暖化対策事業に限定して利用し、小学校の校庭芝生化や屋上・壁面緑化、道路や公園の緑化、地球温暖化防止設備導入補助、「ベランダ緑化」の推進、CIG事業等における基金の充当等へ活用しています。

## 【その他】

- 夢の島区民農園が整備され、区民農園が拡充しています。
- 水辺利用によるにぎわいづくりとして、豊洲ぐるり公園や旧中川・川の駅の整備が進んでいます。
- 南部地区では、「臨海副都心まちづくりガイドライン」に基づき、開発にあわせた新たなみどりが創出されています。
- 接道部緑化の助成等により、みどりによる都市の安全性向上が進んでいます。
- 一定規模以上の建築行為とあわせたみどりの確保として、緑化指導と認定が進んでいます。



豊洲ぐるり公園  
CIGオンラインフォトコンテスト  
(平成30年度入選作品)

## (3) みどりの機能分析

区のみどりの現状について、みどりの機能ごとに特徴と問題点を整理しました。

	特徴	問題点
環境・生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>江東区は海から吹く風の入口に当たり、内部河川、都立猿江恩賜公園、都立大島小松川公園等の大規模な公園・緑地を中心にクールスポートを形成しています。</li> <li>平成17年度との比較では、豊洲等の一部の地域で地表面温度の上昇がみられます。</li> <li>仙台堀川公園や荒川・砂町水辺公園等の大規模な公園・緑地や河川・運河は貴重な動植物の生息・生育空間となっており、都市化が進んだ江東区においては、貴重な生き物との心れいの場にもなっています。</li> <li>区内全域に点在するポケットエコスペースでは、東京都レッドリストに該当する種もみられます。</li> <li>トンボを指標種とした生息地のポテンシャル評価の結果からは、親水公園やポケットエコスペース内の止水域や隣接する樹林地がトンボを含め、生き物にとって良好な生息環境となっていると考えられます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒートアイランド現象の緩和に向けて、樹木の植栽による緑陰形成、屋上緑化や壁面緑化による直射日光を防ぐ取組、まとまった緑地の保全、海からの風を活かして風通しのよいまちづくりを進めること（適応策）等が求められます。</li> <li>北砂三・四・五丁目地区をはじめ、城東地区ではまとまった緑地が不足しています。</li> <li>大島、森下等、市街地のまとまりのある緑地と水辺との連続性が低い場所がみられます。</li> <li>みどりの連続性を高め、多様な生き物の生息域のネットワークを広げていくことが求められます。</li> <li>トンボを指標種としたエコロジカルネットワーク形成に向けては、トンボの移動可能距離(1km)内において、止水域の連続性を確保していくことが求められます。さらに、止水域に隣接する樹林地の確保や水生植物の確保等を図ることで、生物の生息地としての質を高めることが期待されます。</li> </ul>
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>横十間川親水公園の「田んぼの学校」や区内に3か所ある区民農園は、こどもたちが土いじりを体験する場となっています。</li> <li>こどもたちも一緒にコミュニティガーデンづくりに取り組んでいる場所もあります。</li> <li>校庭の芝生化を行っており、こどもたちの健康づくりに貢献しています。</li> <li>小学校に併設してつくられた公園は行事や授業等で学校と一体的に利用されています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みどりの資源は豊富にあるものの、こどもたちの農体験や自然体験の場が不足しています。</li> <li>学校内のポケットエコスペースや花壇づくり、校庭芝生化は一部の学校の取組にとどまっています。</li> </ul>

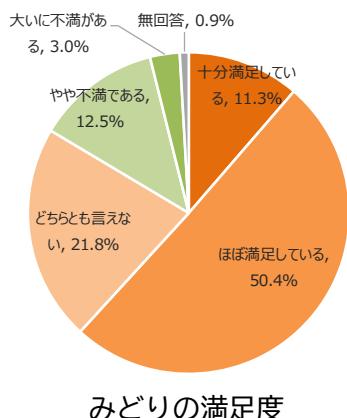
	特徴	問題点
コミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園や緑道等で、グループで花や緑を育てる「コミュニティガーデン」活動が展開されています。</li> <li>身近な公園や水辺、住宅団地のオープンスペース等は、住民同士の交流やコミュニティづくりの場にもなっています。</li> <li>みどりに関する四季折々のイベントが開催され、地域の一体感の醸成に寄与しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>深川地域や城東地域では、コミュニティガーデン活動が一定程度普及してきたものの、南部地域では、みどりをきっかけとしたコミュニティづくりの取組が始まったばかりです。</li> </ul>
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代に、舟運が物資の輸送手段として重要なことを伝える小名木川や旧中川船番所、貯木場の文化を伝える都立木場公園や都立猿江恩賜公園等、江東区ならではの文化を伝えるみどりの資源が点在しています。</li> <li>特に深川や亀戸においては、戦火で焼失したものの、戦後から育まれた保護樹木・樹林が集積しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的に価値のあるみどり、水とともにあったかつての暮らし・なりわい等、江東区ならではの歴史や文化の魅力を知る場や機会が少なく、地域の共有財産として保全しようという機運につながっていません。</li> </ul>
防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園は一時集合場所、避難場所に指定されているものがあり、災害時の安全確保や復旧活動の拠点としての役割を果たしています。</li> <li>街路樹や接道部緑化は延焼遮断効果等が期待され、安全な避難路の確保に寄与しています。</li> <li>防災船着場は、災害時には陸上交通網の補完や物資輸送経路としての役割を果たしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都直下地震や集中豪雨等のリスクへの対応がこれまで以上に求められる中、公園の防災機能の拡充や接道部の緑化を進める必要があります。</li> <li>特に、地域の防災性向上が喫緊の課題となっている北砂三・四・五丁目においては、一時避難場所となるオープンスペースの確保等が求められます。</li> </ul>
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>親水公園や水辺の散歩道・潮風の散歩道、緑道等は、ウォーキング・ランニング・サイクリング等に利用され、区民の健康づくりに貢献しています。</li> <li>「江東区ウォーキングマップ」では、緑や花を楽しむコースが多数紹介されています。</li> <li>公園や水辺がスポーツを楽しむ場となっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園や水辺は、健康遊具やサインの工夫、緑陰の充実等の環境整備により、区民の日常的な健康づくりの場として、さらに活用される余地があります。また、河川でのスポーツを楽しんでいるのは、一部の区民にとどまっています。</li> <li>東京 2020 大会を契機に、南部地域の豊富な水辺を活かして、スポーツ・レクリエーション利用の促進を図ることが求められます。</li> </ul>
観光・にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> <li>江東区文化観光ガイドによるまちあるきツアーでは、水辺を楽しむコースが設定され、水辺が貴重な観光資源となっています。</li> <li>みどりに関する多様なイベントが開催され、みどりの魅力発信や地域のにぎわいづくり、交流促進につながっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内には、魅力あるみどりの資源が点在しているものの、江東区ならではの魅力づくりやストーリー性、魅力発信等が不足していること等から、国内外から人を引き寄せる観光資源として、十分に活かされていません。</li> <li>東京 2020 大会を契機に、南部地域の魅力発信が一層求められます。</li> </ul>
景観形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内の公園や水辺等は、江東区らしさを形成する景観資源となっています。</li> <li>区内の街路樹は、みどり豊かな都市景観を創出します。</li> <li>屋上緑化や壁面緑化等により、周辺のみどりとの連続性のある、うるおいのある空間が創出されています。</li> <li>南部地域では、広がりのある海辺を感じるウォーターフロントの景観が形成されています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京 2020 大会を契機に、南部地域を中心に、国内外から訪れた人が快適に区内を楽しめるようなまちなみやまちの顔となるような魅力ある景観づくりをさらに進める必要があります。</li> </ul>

## (4) みどりに関する区民アンケート

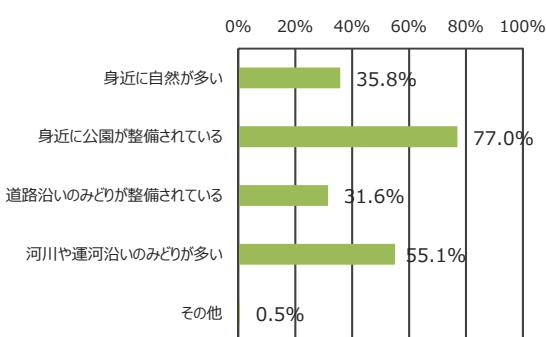
平成 30 年 10 月～11 月に、18 歳以上の区民 1,300 人を対象に、みどりに関するアンケート調査を実施しました。

調査の結果、みどりの満足度については、「十分満足している」と「ほぼ満足している」の合計が 61.7% でした。一方、「やや不満である」と「大いに不満がある」の合計は 15.5% でした。

みどりに満足している理由としては、「身近に公園整備されている」が最も多く 77% を占め、「河川や運河沿いのみどりが多い (55%)」、「身近に自然が多い (36%)」、「道路沿いのみどりが整備されている (32%)」と続いています。



みどりの満足度

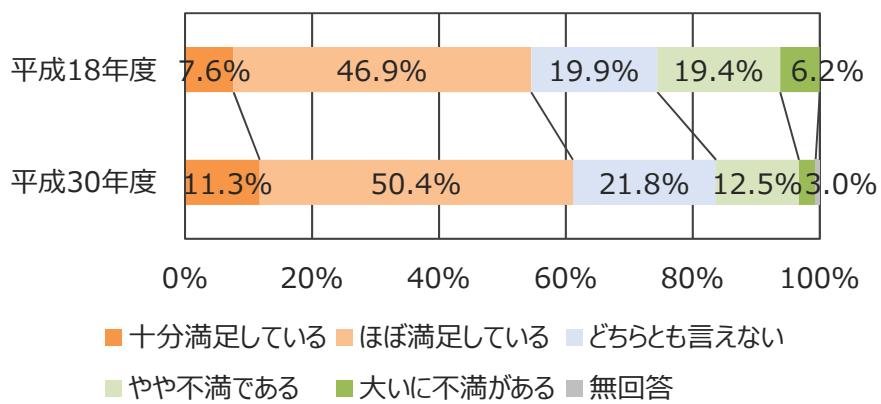


みどりに満足している理由

【出典】 みどりに関する区民意向調査(平成 30 年度)

【出典】 みどりに関する区民意向調査(平成 30 年度)

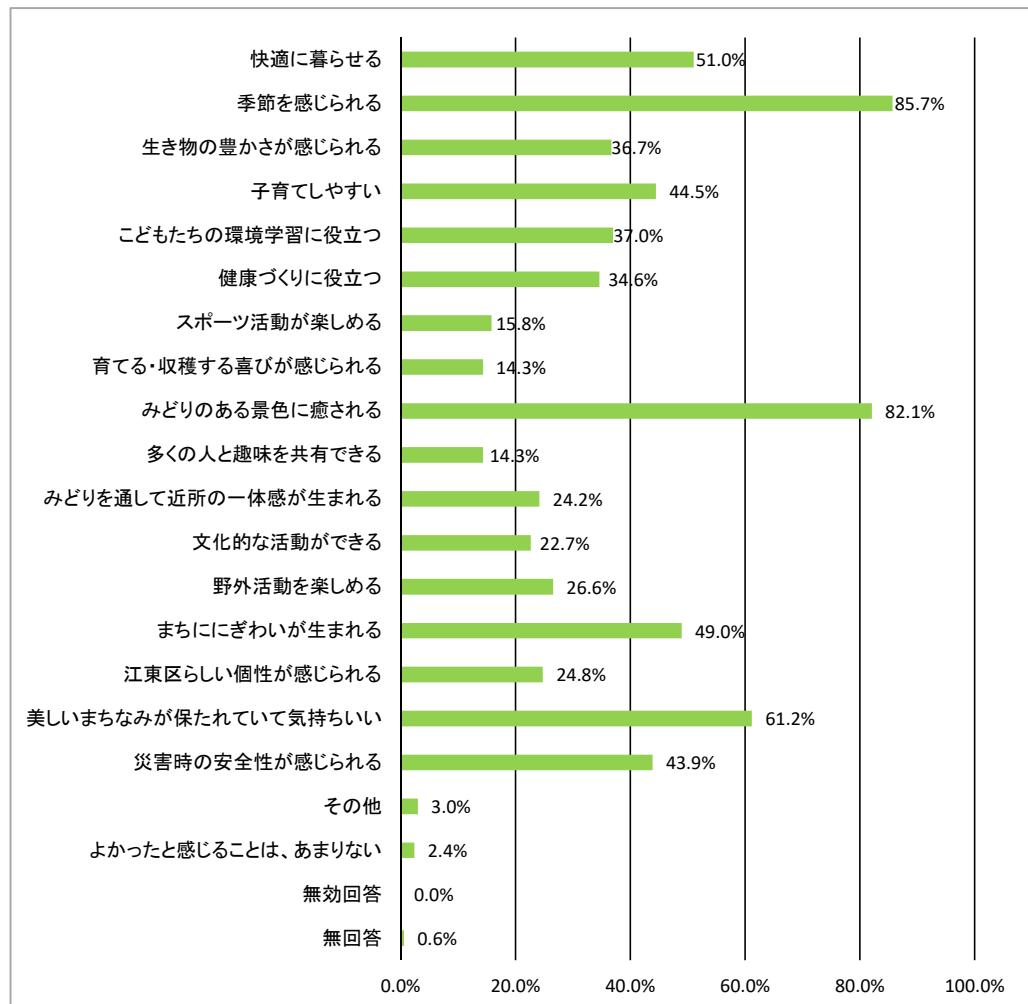
平成 18 年度の調査結果と比較すると、みどりの満足度については、「十分満足している」と「ほぼ満足している」の合計が、54.5% から 61.7% に増加しています。



みどりに対する区民満足度の比較

【出典】 みどりに関する区民意向調査(平成 18 年度、平成 30 年度)

「みどりがあってよかったと感じるとき」については、「季節を感じられる（86%）」が最も多く、次いで「みどりのある景色に癒される（82%）」、「美しいまちなみが保たれていて気持ちいい（61%）」、「快適に暮らせる（51%）」が続きました。



みどりがあってよかったと感じるとき

【出典】 みどりに関する区民意向調査（平成 30 年度）

#### ※ 江東区長期計画 区民アンケート結果（抜粋）

令和元年 9 月に、18 歳以上の区民 3,000 人を対象に江東区長期計画区民アンケートを実施しました。

調査の結果、水辺と緑の満足度については、「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計が 74.4% でした。

あなたは、江東区内の水辺と緑に満足していますか。

1 満足している	26.3%	2 どちらかといえば満足している	48.1%
3 どちらともいえない	15.2%	4 どちらかといえば不満である	5.9%
5 不満である	1.8%	6 わからない	2.7%

## (5) みどりに対するCIG区民センター会議・区民団体の意見

CIG区民センター会議をはじめ、江東区内でみどりに関する活動を行っている団体や事業者を対象として、区内のみどりの現状・問題点、みどりを活かしたまちづくりへのアイデア等についての意見を伺い、それらを踏まえた実効性の高い計画とするため、ヒアリングを実施しました。

以下に、ヒアリングで得られた意見を整理し、概要をまとめました。

項目	意見の概要
公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>昆虫や野鳥等がいる生物多様性に配慮された公園、交流の場となるような質の高い公園が理想。</li> <li>公園の利便性を高めるマネジメントが必要。</li> </ul>
水辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>水辺は江東区ならではの資源であり強みである。散歩道等の整備は進んでいるが、まだ活用の余地がある。</li> <li>散歩道に日陰や休憩ができる場所を設置し、親しめる水辺、回遊性の高い水辺となるとよい。</li> <li>カヌー等に乗る人が休憩できる場所が、水辺の所々にあるとよい。</li> </ul>
街路樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>剪定の質が低いので、モデル地区を定め、手本となるような街路樹づくりを推進するとよい。</li> </ul>
緑化	<ul style="list-style-type: none"> <li>白河や亀戸等の内陸部では緑被率が低く、量的拡大やネットワーク化が進んでいない。</li> <li>緑化指導は、質を担保する仕組みがあるとよい。</li> <li>駅前に花壇等を設置することで、おもてなし感が出るとよい。</li> <li>マンションの屋上や未利用地等は農園としての活用できるのではないか。</li> <li>屋上を農園にしている商業施設があり、区や幼稚園、学校との連携を望んでいる。</li> </ul>
生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>江東区には素晴らしいみどりの資源があり、生き物の生息地としてのポテンシャルは高いが、ネットワークが形成されていない。</li> <li>緑地は単に増やすだけでなく、環境や生物多様性に配慮することが必要。</li> </ul>
コミュニティガーデン	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティガーデンの取組が進んでいることが江東区の特徴であり、この文化をもつと普及させたい。</li> <li>コミュニティガーデンは、地域交流の場であり、高齢者の見守り、やりがいや誇りの醸成等、様々な効果がある。</li> <li>普段から公園を利用することで災害時の一時集合場所としての認知も浸透する。</li> <li>マンション前や壁面等、地域の目に触れるところにもコミュニティガーデンを広げたい。</li> </ul>
区民意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>みどりに対する区民の関心を高めることが必要であり、主体的に行動していくことが必要。</li> <li>行政だけでなく、区民や企業を巻き込むことが必要。</li> <li>区民のみどりへの愛着を高めるには、「魅力的」、「楽しい」という要素も大切である。</li> <li>みどりの情報を知ることができるポータルサイトがあるとよい。</li> </ul>
文化・暮らし・にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> <li>みどりを暮らしや教育、まちづくり等に活かす視点、利用価値を高める視点が重要である。</li> <li>水とともにあった暮らしや文化があるが、今は昔に比べるとこどもたちが水や自然にふれあう機会が減った。</li> <li>歴史ある特徴的な橋やかつての堀割の面影を伝える公園等も、江東区ならではの資源として活かしたい。</li> <li>みどりの見所等の人が集まる場所をつくり、イベント等を行うことで地域のにぎわいづくりにつなげていきたい。</li> </ul>

項目	意見の概要
区民・事業者との連携・稼げる公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の社会貢献を活かす仕組み、公園での販売活動で得た利益を公園の維持管理に還元するような仕組みがあるとよい。</li> <li>水辺の景観を活かして商売をする、樹林を借景にカフェをつくる等、民間事業者が売上目的で水辺やみどりを魅力的にする視点があつてもよい。</li> <li>水辺や公園の柔軟な利用を許容する仕組みがほしい。</li> <li>大企業を巻き込んだみどりの活動がしたい。</li> <li>ネーミングライツを導入する等して、企業が公園のスポンサーになってもよい。</li> <li>新木場には企業が整備したハーブガーデンがあり、地域との交流に役立っている。</li> <li>江東区の会社が情報発信できる場である「江東区社会貢献ネットワーク」にみどりの活動に参加してもらうとよい。</li> </ul>
区民活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポケットエコスペースの維持管理は、ボランティアで担うには負担が大きい。</li> <li>ボランティアが高齢化しており、世代交代や裾野拡大が進んでいない。</li> <li>ほめられる、やりがいを感じられる仕組みが必要。</li> <li>活動拠点がほしい。</li> </ul>
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネイチャーリーダー養成講座の卒業生は、ビオトープの維持管理等、現場の活動の担い手としての活躍が期待されるものの、実際に担い手となる人は少ない。</li> <li>講座の参加者は高齢者が多く、年々参加者も減っている。</li> </ul>
計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施計画を定め着実な事業実施を図ることが必要。</li> </ul>

## 2 課題

みどりの持つ多様な機能を十分に発揮することを前提として、江東区のみどりの特徴を踏まえつつ、当初計画やCIGビジョンにおける目標の達成状況や施策の進捗状況、区民ニーズ等を総合的に勘案し、課題を6つに整理します。あわせて各課題解決に当たって、特に活用が期待されるみどりの機能を示します。

### 特徴と問題点

目標達成状況 CIGビジョンにおける施策の進捗状況

みどりの機能分析

みどりに対する区民アンケート

みどりに対するCIG区民サポーター会議・区民団体の意見

### 背景

社会情勢

みどりの基本計画の位置付け

### 課題

(1) 水辺と一体となった緑化空間の形成が必要

環境・生物多様性

(2) 多様なニーズに応える公園づくりが必要

子育て・教育

健康・福祉

コミュニティ形成

(3) 質の高いみどりを増やすことが必要

環境・生物多様性

観光・にぎわい

歴史・文化

景観形成

(4) みどりの大切さを知つもらうことが必要

子育て・教育

コミュニティ形成

観光・にぎわい

歴史・文化

(5) 安全な暮らしにみどりを役立てることが必要

防災・減災

(6) 区民・事業者との連携を加速させることが必要

コミュニティ形成

景観形成

## (1) 水辺と一体となった緑化空間の形成が必要

- 散歩道を整備することで、水辺の緑化・ネットワーク化を推進し、ヒートアイランド現象の緩和や生物多様性の向上（エコロジカルネットワークの形成）に寄与する「風の道」の充実を図る必要があります。

## (2) 多様なニーズに応える公園づくりが必要

- 公園は区民にとって大切な資産であり、公園のあり方に対しては多様なニーズが存在する一方、公園管理の現場では落ち葉や虫への苦情や公園施設の老朽化等の問題がみられます。木陰が心地よい、自然の恵みや生き物の豊かさが感じられる、こどもを安心して遊ばせることができる、ゆっくり過ごすことができる、健康づくりに役立つ等、地域の特性やニーズに対応した暮らしの質を高めるような公園づくりが必要です。
- また、区民や民間事業者が公園づくりに参加できる仕組みや Park-PFI 等の活用、地域の実情に応じた公園の管理が必要です。

## (3) 質の高いみどりを増やすことが必要

- みどりの量は増加している一方、それが区民に十分に実感されていません。
- これまでの“守る、増やす”だけでなく、民有地や公共施設の質の高い緑化や駅前花壇の充実によるまちの顔づくり、連続した緑陰の確保や街路樹の充実、公園・緑地等のクールスポットのネットワーク化等による快適な都市環境の形成、生物多様性の向上に資するポケットエコスペースづくり等、質の高いみどりの充実が必要です。
- 江東区らしい質の高いみどりを充実させるために、各地区によって異なるみどりの特徴を活かした取組を展開することが求められています。

## (4) みどりの大切さを知つてもらうことが必要

- 区内のみどりは、季節の演出や癒やしの資源としての価値は評価されている一方、趣味の共有の場や育てる喜びを感じられる場としての価値は十分に実感されていません。土いじりや農体験の場づくり、みどりを通したコミュニティづくり、教育や子育て支援・健康づくりに役立つみどりの充実、地域に親しまれている樹木等の保全等、区民が愛着をもってふれあうことができ、価値を実感できるみどりを増やす取組が求められます。
- また、区民自らが地域のみどりの魅力を発見する機会の充実、四季折々のみどりの見所、江東区ならではのみどりの歴史・文化の情報発信、みどりを活かした観光振興等を通して、区内外の多くの人に、江東区のみどりの魅力や大切さを知つてもらうことが必要です。
- また、学校と連携した環境教育を推進するとともに、こどもたちがみどりにふれあう機会の充実、みどりの活動やみどりに関する知識の普及啓発を図ることで、みどりを大切にする区民の意識を育んでいくことも必要です。

## (5) 安全な暮らしにみどりを役立てることが必要

- 災害に強く、安全に暮らせるまちづくりへの区民ニーズが高いことから、みどりが持つ防災機能を活かし、接道部緑化等による避難時の安全性の確保や身近な公園の防災機能強化、密集市街地での適切なオープンスペースの確保、避難路や物資の輸送路としての舟運の活用等を推進することが必要です。

## (6) 区民・事業者との連携を加速させることが必要

- 緑化を推進するためには、区民がみどりの活動に参加しやすい仕組みづくりや企業の社会貢献等、多様な主体との連携が必要です。
- 民間活力による魅力ある公園づくりや区民や事業者と連携したまちなか緑化の推進、住宅地のみどりの育成等が求められます。
- また、今後も南部地域を中心に開発が進むことが予想されることから、民間の開発に合わせて良好なみどりが創出される仕組みを充実させることも求められます。



事業者による公開空地の整備イメージ